

第1問

解答解説のページへ

[1] $a > 0$, $a \neq 1$ として, 不等式

$$2\log_a(8-x) > \log_a(x-2) \cdots \cdots \textcircled{1}$$

を満たす x の値の範囲を求めよう。

真数は正であるから, $\boxed{\text{ア}} < x < \boxed{\text{イ}}$ が成り立つ。ただし, 対数 $\log_a b$ に対し, a を底といい, b を真数という。

底が $a < 1$ を満たすとき, 不等式①は

$$x^2 - \boxed{\text{ウエ}}x + \boxed{\text{オカ}} \boxed{\text{キ}} 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

となる。ただし, $\boxed{\text{キ}}$ については, 当てはまるものを, 次の①～③のうちから 1 つ 選べ。

$$\textcircled{1} < \quad \textcircled{2} = \quad \textcircled{3} >$$

したがって, 真数が正であることと②から, $a < 1$ のとき, 不等式①を満たす x のとり得る値の範囲は $\boxed{\text{ク}} < x < \boxed{\text{ケ}}$ である。

同様にして, $a > 1$ のときには, 不等式①を満たす x のとり得る値の範囲は

$$\boxed{\text{コ}} < x < \boxed{\text{サ}}$$

[2] $0 \leq \alpha \leq \pi$ として $\sin \alpha = \cos 2\beta$ を満たす β について考えよう。ただし, $0 \leq \beta \leq \pi$ とする。

たとえば, $\alpha = \frac{\pi}{6}$ のとき, β のとり得る値は $\frac{\pi}{\boxed{\text{シ}}}$ と $\frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{シ}}}\pi$ の 2 つである。

このように, α の各値に対して, β のとり得る値は 2 つある。そのうちの小さい方を β_1 , 大きい方を β_2 とし, $y = \sin\left(\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3}\right)$ が最大となる α の値とそのときの y の値を求めよう。

 β_1, β_2 を α を用いて表すと, $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ のときは

$$\beta_1 = \frac{\pi}{\boxed{\text{セ}}} - \frac{\alpha}{\boxed{\text{ソ}}}, \quad \beta_2 = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{セ}}}\pi + \frac{\alpha}{\boxed{\text{ソ}}}$$

となり, $\frac{\pi}{2} \leq \alpha \leq \pi$ のときは

$$\beta_1 = -\frac{\pi}{\boxed{\text{チ}}} + \frac{\alpha}{\boxed{\text{ツ}}}, \quad \beta_2 = \frac{\boxed{\text{テ}}}{\boxed{\text{チ}}}\pi - \frac{\alpha}{\boxed{\text{ツ}}}$$

となる。

したがって、 $\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3}$ のとり得る値の範囲は

$$\frac{\boxed{\text{ト}}}{\boxed{\text{ナ}}}\pi \leq \alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} \leq \frac{\boxed{\text{ニ又}}}{\boxed{\text{ネ}}}\pi$$

である。よって、 y が最大となる α の値は $\frac{\boxed{\text{ノ}}}{\boxed{\text{ハヒ}}}\pi$ であり、そのときの y の値は

$\boxed{\text{フ}}$ であることがわかる。 $\boxed{\text{フ}}$ に当てはまるものを、次の①～④のうちから 1 つ 選べ。

① $\frac{1}{2}$

② 1

③ $\frac{\sqrt{2}}{2}$

④ $\frac{\sqrt{3}}{2}$

第2問

解答解説のページへ

座標平面上で、曲線 $y = x^3$ を C とし、放物線 $y = x^2 + px + q$ を D とする。

- (1) 曲線 C 上の点 $P(a, a^3)$ における C の接線の方程式は

$$y = 3a^{\text{ア}}x - \text{イ} a^{\text{ウ}}$$

である。放物線 D は点 P を通り、 D の P における接線と、 C の P における接線が一致するという。このとき、 p と q を a を用いて表すと

$$p = 3a^{\text{エ}} - \text{オ} a, \quad q = \text{カキ} a^3 + a^{\text{ク}} \dots\dots\dots \text{①}$$

となる。

以下、 p, q は①を満たすとする。

- (2) 放物線 D が y 軸上の与えられた点 $Q(0, b)$ を通るとき

$$b = \text{ケコ} a^3 + a^{\text{サ}} \dots\dots\dots \text{②}$$

が成り立つ。与えられた b に対して、②を満たす a の値の個数を調べよう。

そのために、関数 $f(x) = \text{ケコ} x^3 + x^{\text{サ}}$ の増減を調べる。関数 $f(x)$ は、

$x = \text{シ}$ で極小値 ス をとり、 $x = \frac{\text{セ}}{\text{ソ}}$ で極大値 $\frac{\text{タ}}{\text{チツ}}$ をとる。

関数 $y = f(x)$ のグラフをかくことにより、 $\text{ス} < b < \frac{\text{タ}}{\text{チツ}}$ のとき、②を満たす a の値の個数は テ であることがわかる。

- (3) 放物線 D の頂点が x 軸上にあるのは、 $a = \text{ト}$, $\frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$ の2つの場合である。

$a = \text{ト}$ のときの放物線を D_1 , $a = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$ のときの放物線を D_2 とする。

D_1, D_2 と x 軸で囲まれた図形の面積は $\frac{2^{\text{ヌ}}}{3^{\text{ネノ}}}$ である。

第3問

解答解説のページへ

$\{a_n\}$ を $a_2 = -\frac{7}{3}$, $a_5 = -\frac{25}{3}$ である等差数列とし、自然数 n に対して $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$ とおく。

$a_1 = \frac{\boxed{\text{アイ}}}{\boxed{\text{ウ}}}$ であり、 $\{a_n\}$ の公差は $\boxed{\text{エオ}}$ である。したがって

$$a_n = \boxed{\text{カキ}}n + \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

$$S_n = \boxed{\text{コ}}n^2 + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

である。

次に、数列 $\{b_n\}$ は

$$\sum_{k=1}^n b_k = \frac{4}{3}b_n + S_n \quad (n=1, 2, 3, \dots) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を満たすとする。数列 $\{b_n\}$ の一般項を求めよう。①から、 $b_1 = \boxed{\text{ス}}$ である。さら

に、 $\sum_{k=1}^{n+1} b_k = \sum_{k=1}^n b_k + b_{n+1}$ に注意して、①を利用すると

$$b_{n+1} = \boxed{\text{セ}}b_n + \boxed{\text{ソ}}n + \boxed{\text{タ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

が成り立ち、この等式は

$$b_{n+1} + \boxed{\text{チ}}(n+1) + \boxed{\text{ツ}} = \boxed{\text{セ}}(b_n + \boxed{\text{チ}}n + \boxed{\text{ツ}}) \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

と変形できる。ここで

$$c_n = b_n + \boxed{\text{チ}}n + \boxed{\text{ツ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots) \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

とおくと、 $\{c_n\}$ は、 $c_1 = \boxed{\text{テ}}$ 、公比が $\boxed{\text{ト}}$ の等比数列であるから、②により

$$b_n = \boxed{\text{ナ}} \frac{\boxed{\text{ニ}}}{\boxed{\text{ト}}} - \boxed{\text{ヌ}}n - \boxed{\text{ネ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

である。ただし、 $\boxed{\text{ニ}}$ については、当てはまるものを、次の①～④のうちから1つ選べ。

- ① $n-2$ ② $n-1$ ③ n ④ $n+1$ ⑤ $n+2$

第4問

解答解説のページへ

空間に異なる4点 O, A, B, C を, $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{OB}$, $\overrightarrow{OB} \perp \overrightarrow{OC}$, $\overrightarrow{OC} \perp \overrightarrow{OA}$ となるようにとり, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とおく。さらに, 3点 D, E, F を, $\overrightarrow{OD} = \vec{a} + \vec{b}$, $\overrightarrow{OE} = \vec{b} + \vec{c}$, $\overrightarrow{OF} = \vec{a} + \vec{c}$ となるようにとり, 線分 BD の中点を L, 線分 CE の中点を M とし, 線分 AD を 3:1 に内分する点を N とする。

(1) \overrightarrow{OM} , \overrightarrow{ON} は \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて, $\overrightarrow{OM} = \frac{1}{\boxed{\text{ア}}}\vec{b} + \vec{c}$, $\overrightarrow{ON} = \vec{a} + \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}\vec{b}$ と

表される。

(2) 2直線 FL, MN が交わることを確かめよう。 $0 < s < 1$ とし, 線分 FL を $s:(1-s)$ に内分する点を P とする。 \overrightarrow{OP} は, s と \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて

$$\overrightarrow{OP} = \left(\boxed{\text{エ}} - \frac{s}{\boxed{\text{オ}}} \right) \vec{a} + s\vec{b} + \left(\boxed{\text{カ}} - s \right) \vec{c}$$

と表される。 $s = \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}$ のとき, $\overrightarrow{MP} = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}\overrightarrow{MN}$ となるので, M, N, P は一

直線上にある。よって, 2直線 FL, MN は交わることがわかる。

(3) 2直線 FL, MN の交点を G とする。 \overrightarrow{OG} , \overrightarrow{GF} は, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて

$$\overrightarrow{OG} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \left(\boxed{\text{ス}}\vec{a} + \boxed{\text{セ}}\vec{b} + \vec{c} \right)$$

$$\overrightarrow{GF} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \left(\vec{a} - \boxed{\text{セ}}\vec{b} + \boxed{\text{ソ}}\vec{c} \right)$$

と表される。

$|\vec{a}| = \sqrt{5}$, $|\vec{b}| = 4$, $|\vec{c}| = \sqrt{3}$ とする。このとき $|\overrightarrow{GF}| = \boxed{\text{タ}}$, $|\overrightarrow{GM}| = 2$ となる。

次に, 直線 OC 上に点 H をとり, 実数 t を用いて, $\overrightarrow{OH} = t\vec{c}$ と表す。 $\overrightarrow{GF} \cdot \overrightarrow{GH}$, $\overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GH}$ は, t を用いて

$$\overrightarrow{GF} \cdot \overrightarrow{GH} = \boxed{\text{チ}}t + \frac{\boxed{\text{ツテ}}}{\boxed{\text{ト}}} \dots\dots\dots \text{①}$$

$$\overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GH} = 2t + \frac{10}{3} \dots\dots\dots \text{②}$$

と表される。

さらに, $\angle FGH = \angle MGH$ とする。このときの t の値を求めよう。

$|\overrightarrow{GF}| = \boxed{\text{タ}}$, $|\overrightarrow{GM}| = 2$ と $\angle FGH = \angle MGH$ であることから,

$$\overrightarrow{GF} \cdot \overrightarrow{GH} = \frac{\boxed{\text{ナ}}}{\boxed{\text{ニ}}} \overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GH} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

が成り立つ。①, ②, ③から, $t = \frac{\boxed{\text{ヌ}}}{\boxed{\text{ネ}}}$ である。

第1問

問題のページへ

[1] 不等式 $2\log_a(8-x) > \log_a(x-2)$ ……①に対して、 $8-x > 0$ かつ $x-2 > 0$ より、

$$2 < x < 8 \dots\dots\dots(*)$$

 $0 < a < 1$ のとき、①は、 $(8-x)^2 < x-2$ となり、 $x^2 - 17x + 66 < 0$ ……②

$$(x-6)(x-11) < 0$$

よって、②から $6 < x < 11$ となり、(*)と合わせて、 $6 < x < 8$ また、 $a > 1$ のとき、①は、 $(8-x)^2 > x-2$ となり、 $x < 6$ 、 $11 < x$ すると、(*)と合わせて、 $2 < x < 6$ [2] $\sin \alpha = \cos 2\beta$ ……③に対して、 $\alpha = \frac{\pi}{6}$ のとき $\frac{1}{2} = \cos 2\beta$ となり、 $0 \leq \beta \leq \pi$ から、

$$2\beta = \frac{\pi}{3}, \frac{5}{3}\pi, \beta = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi$$

さて、③より、 $\cos\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) = \cos 2\beta$ と変形し、 $0 \leq \beta_1 < \beta_2 \leq \pi$ とすると、(i) $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ のとき $0 < \frac{\pi}{2} - \alpha \leq \frac{\pi}{2}$ 、 $0 \leq 2\beta \leq 2\pi$ なので、

$$2\beta_1 = \frac{\pi}{2} - \alpha, \quad 2\beta_2 = 2\pi - \left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) \text{ より、} \beta_1 = \frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2}, \quad \beta_2 = \frac{3}{4}\pi + \frac{\alpha}{2}$$

(ii) $\frac{\pi}{2} \leq \alpha \leq \pi$ のとき $-\frac{\pi}{2} \leq \frac{\pi}{2} - \alpha \leq 0$ 、 $0 \leq 2\beta \leq 2\pi$ なので、

$$2\beta_1 = -\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right), \quad 2\beta_2 = 2\pi + \left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) \text{ より、} \beta_1 = -\frac{\pi}{4} + \frac{\alpha}{2}, \quad \beta_2 = \frac{5}{4}\pi - \frac{\alpha}{2}$$

(i)(ii)より、 $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ のとき、 $\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} = \alpha + \frac{\pi}{8} - \frac{\alpha}{4} + \frac{\pi}{4} + \frac{\alpha}{6} = \frac{11}{12}\alpha + \frac{3}{8}\pi$

$$\frac{3}{8}\pi \leq \alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} < \frac{11}{12} \cdot \frac{\pi}{2} + \frac{3}{8}\pi = \frac{5}{6}\pi \dots\dots\dots④$$

また、 $\frac{\pi}{2} \leq \alpha \leq \pi$ のとき、 $\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} = \alpha - \frac{\pi}{8} + \frac{\alpha}{4} + \frac{5}{12}\pi - \frac{\alpha}{6} = \frac{13}{12}\alpha + \frac{7}{24}\pi$

$$\frac{5}{6}\pi = \frac{13}{12} \cdot \frac{\pi}{2} + \frac{7}{24}\pi \leq \alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} \leq \frac{13}{12}\pi + \frac{7}{24}\pi = \frac{11}{8}\pi \dots\dots\dots⑤$$

よって、 $0 \leq \alpha \leq \pi$ のとき、④⑤より、 $\frac{3}{8}\pi \leq \alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} \leq \frac{11}{8}\pi$ である。これより、 $y = \sin\left(\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3}\right)$ が最大となるのは、 $\alpha + \frac{\beta_1}{2} + \frac{\beta_2}{3} = \frac{\pi}{2}$ のときで、

$$\frac{11}{12}\alpha + \frac{3}{8}\pi = \frac{\pi}{2}, \quad \alpha = \frac{3}{22}\pi$$

このとき、最大値は $y = 1$ である。

[解説]

[2]はセンター試験としては、従来のレベルを超えています。一昨年と異なり、本年は、誘導がつけられていません。

第2問

問題のページへ

- (1)
- $C: y = x^3$
- に対し,
- $y' = 3x^2$
- より, 点
- $P(a, a^3)$
- における接線の方程式は,

$$y - a^3 = 3a^2(x - a), \quad y = 3a^2x - 2a^3 \cdots \cdots (*)$$

また, $D: y = x^2 + px + q$ に対し, $y' = 2x + p$ より, P における接線の方程式は,

$$y - (a^2 + pa + q) = (2a + p)(x - a), \quad y = (2a + p)x - a^2 + q \cdots \cdots (**)$$

(*)と(**)が一致することより, $3a^2 = 2a + p, -2a^3 = -a^2 + q$

$$p = 3a^2 - 2a, \quad q = -2a^3 + a^2 \cdots \cdots \textcircled{1}$$




- (2) ①から,
- $D: y = x^2 + (3a^2 - 2a)x + (-2a^3 + a^2)$
- となり, 点
- $Q(0, b)$
- を通るとき,

$$b = -2a^3 + a^2 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

さて, $f(x) = -2x^3 + x^2$ とおくと, ②は, $b = f(a)$ となり,

$$f'(x) = -6x^2 + 2x = -2x(3x - 1)$$

右表より, $f(x)$ は, $x = 0$ で極小値 0 をとり, $x = \frac{1}{3}$ で極大値 $\frac{1}{27}$ をとる。すると, $0 < b < \frac{1}{27}$ のとき, ②を満たす a の

x	...	0	...	$\frac{1}{3}$...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$		0		$\frac{1}{27}$	

値の個数は3となる。

- (3)
- D
- が
- x
- 軸に接するのは,
- $x^2 + (3a^2 - 2a)x + (-2a^3 + a^2) = 0$
- に対し,

$$D = (3a^2 - 2a)^2 - 4(-2a^3 + a^2) = a^3(9a - 4) = 0$$

よって, $a = 0, \frac{4}{9}$ であり, この場合に, D はそれぞれ,

$$D_1: y = x^2, \quad D_2: y = x^2 - \frac{8}{27}x + \left(\frac{4}{27}\right)^2 = \left(x - \frac{4}{27}\right)^2$$

すると, D_1 と D_2 の交点は, $x^2 = \left(x - \frac{4}{27}\right)^2$ から, $x = \frac{2}{27}$ 以上より, D_1, D_2 と x 軸で囲まれた図形の面積 S は,

$$S = \int_0^{\frac{2}{27}} x^2 dx + \int_{\frac{2}{27}}^{\frac{4}{27}} \left(x - \frac{4}{27}\right)^2 dx = 2 \int_0^{\frac{2}{27}} x^2 dx = \frac{2}{3} \left(\frac{2}{27}\right)^3 = \frac{2^4}{3^{10}}$$

[解説]

微積分は穏やかな問題です。ただ, (2)と(3)は関連がありません。

第3問

問題のページへ

等差数列 $\{a_n\}$ の公差を d とすると、 $a_2 = -\frac{7}{3}$ 、 $a_5 = -\frac{25}{3}$ より、

$$a_1 + d = -\frac{7}{3}, \quad a_1 + 4d = -\frac{25}{3}$$

よって、 $d = -2$ 、 $a_1 = -\frac{1}{3}$ となり、 $a_n = -\frac{1}{3} - 2(n-1) = -2n + \frac{5}{3}$

$$S_n = \frac{1}{2} \left(-\frac{1}{3} - 2n + \frac{5}{3} \right) n = -n^2 + \frac{2}{3}n$$

さて、 $\sum_{k=1}^n b_k = \frac{4}{3}b_n + S_n \cdots \cdots \textcircled{1}$ に、 $n=1$ を代入すると、 $b_1 = \frac{4}{3}b_1 + S_1$ から、

$$\frac{1}{3}b_1 + a_1 = 0, \quad b_1 = -3a_1 = 1$$

さらに、 $\sum_{k=1}^{n+1} b_k = \sum_{k=1}^n b_k + b_{n+1}$ から、 $\frac{4}{3}b_{n+1} + S_{n+1} = \frac{4}{3}b_n + S_n + b_{n+1}$

$$\frac{1}{3}b_{n+1} = \frac{4}{3}b_n - (S_{n+1} - S_n), \quad b_{n+1} = 4b_n - 3a_{n+1}$$

すると、 $a_{n+1} = -2n - \frac{1}{3}$ から、 $b_{n+1} = 4b_n + 6n + 1 \cdots \cdots (*)$

ここで、 $(*)$ を満たす 1 つの数列を、 $b_n = \alpha n + \beta$ とおくと、

$$\alpha(n+1) + \beta = 4(\alpha n + \beta) + 6n + 1$$

任意の n で成り立つ条件は、 $\alpha = 4\alpha + 6$ 、 $\alpha + \beta = 4\beta + 1$ から、 $\alpha = -2$ 、 $\beta = -1$

$$-2(n+1) - 1 = 4(-2n - 1) + 6n + 1 \cdots \cdots (**)$$

$(*)$ 、 $(**)$ の両辺の差をとって、 $b_{n+1} + 2(n+1) + 1 = 4(b_n + 2n + 1)$

ここで、 $c_n = b_n + 2n + 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$ とおくと、 $c_{n+1} = 4c_n$ となる。

よって、数列 $\{c_n\}$ は公比が 4 の等比数列となり、 $c_1 = b_1 + 2 + 1 = 4$ なので、

$$c_n = 4 \cdot 4^{n-1} = 4^n$$

したがって、 $\textcircled{2}$ より、 $b_n = c_n - 2n - 1 = 4^n - 2n - 1$

[解説]

これまで出題のなかったタイプの漸化式です。「ピンポイント レクチャー」に、上の誘導と同じ解法で説明をしていますので、参照してください。

第4問

問題のページへ

まず、条件より、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = 0 \cdots \cdots (*)$

- (1) $\vec{OD} = \vec{a} + \vec{b}$, $\vec{OE} = \vec{b} + \vec{c}$, $\vec{OF} = \vec{a} + \vec{c}$ で、線分 BD の中点を L, 線分 CE の中点を M, 線分 AD を 3:1 に内分する点を N とするので、

$$\vec{OL} = \frac{1}{2}\vec{a} + \vec{b}, \quad \vec{OM} = \frac{1}{2}\vec{b} + \vec{c}, \quad \vec{ON} = \vec{a} + \frac{3}{4}\vec{b}$$

- (2) 線分 FL を $s:(1-s)$ に内分する点を P とすると、

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-s)\vec{OF} + s\vec{OL} \\ &= (1-s)(\vec{a} + \vec{c}) + s\left(\frac{1}{2}\vec{a} + \vec{b}\right) = \left(1 - \frac{s}{2}\right)\vec{a} + s\vec{b} + (1-s)\vec{c} \end{aligned}$$

$$\text{すると、} \vec{MP} = \vec{OP} - \vec{OM} = \left(1 - \frac{s}{2}\right)\vec{a} + \left(s - \frac{1}{2}\right)\vec{b} - s\vec{c}$$

$$\vec{MN} = \vec{ON} - \vec{OM} = \vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} - \vec{c}$$

ここで、 k を定数として、 $\vec{MP} = k\vec{MN}$ とおくと、 \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} が 1 次独立より、

$$1 - \frac{s}{2} = k, \quad s - \frac{1}{2} = \frac{1}{4}k, \quad -s = -k$$

この 3 式は、 $s = k = \frac{2}{3}$ で成立することより、 $\vec{MP} = \frac{2}{3}\vec{MN}$ となり、M, N, P は一

直線上にあることから、2 直線 FL, MN は交わっている。

- (3) 2 直線 FL, MN の交点 G は、(2) より、

$$\vec{OG} = \left(1 - \frac{1}{3}\right)\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b} + \left(1 - \frac{2}{3}\right)\vec{c} = \frac{1}{3}(2\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c})$$

$$\vec{GF} = \vec{OF} - \vec{OG} = \frac{1}{3}(\vec{a} - 2\vec{b} + 2\vec{c})$$

さて、 $|\vec{a}| = \sqrt{5}$, $|\vec{b}| = 4$, $|\vec{c}| = \sqrt{3}$ のとき、(*) を利用すると、

$$|\vec{GF}| = \frac{1}{3}\sqrt{5 + 4 \cdot 16 + 4 \cdot 3} = 3$$

また、 $\vec{GM} = \vec{OM} - \vec{OG} = \frac{1}{6}(-4\vec{a} - \vec{b} + 4\vec{c})$ から、

$$|\vec{GM}| = \frac{1}{6}\sqrt{16 \cdot 5 + 16 + 16 \cdot 3} = 2$$

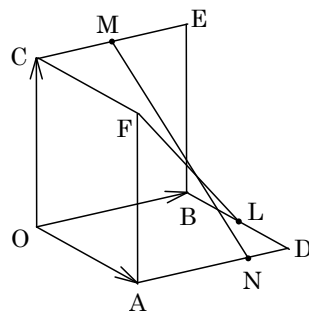
次に、 $\vec{OH} = t\vec{c}$ のとき、 $\vec{GH} = \vec{OH} - \vec{OG} = \frac{1}{3}\{-2\vec{a} - 2\vec{b} + (3t-1)\vec{c}\}$ となり、

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \frac{1}{9}\{-2 \cdot 5 + 4 \cdot 16 + 2(3t-1) \cdot 3\} = 2t + \frac{16}{3} \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\vec{GM} \cdot \vec{GH} = \frac{1}{18}\{8 \cdot 5 + 2 \cdot 16 + 4(3t-1) \cdot 3\} = 2t + \frac{10}{3} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

さらに、 $\angle FGH = \angle MGH$ のとき、 $\cos \angle FGH = \cos \angle MGH$ から、

$$\frac{\vec{GF} \cdot \vec{GH}}{|\vec{GF}| |\vec{GH}|} = \frac{\vec{GM} \cdot \vec{GH}}{|\vec{GM}| |\vec{GH}|}, \quad \frac{\vec{GF} \cdot \vec{GH}}{3} = \frac{\vec{GM} \cdot \vec{GH}}{2}$$



$$\text{よって, } \overrightarrow{GF} \cdot \overrightarrow{GH} = \frac{3}{2} \overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GH} \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3} \text{より, } 2t + \frac{16}{3} = \frac{3}{2} \left(2t + \frac{10}{3} \right) \text{となり, } t = \frac{1}{3} \text{である。}$$

[解説]

何とも言いがたいほどの計算量です。配点を考えると、制限時間は12分ですが、これでは不足するのが普通です。さらに、 \overrightarrow{GM} の絡んでいる部分は、計算結果が問題文中に記してあり、勢いがそがれてしまいます。もっとも、この形式、今年が最初というわけではありませんが。